

身頃袖ぐり線と上肢の動作域

—肥満体型について—

昭和女大短大

刑部昭子

○瀬沼類子

目的 標準・狭長体型で身頃袖ぐり線を変えたブラウスを試作し、動作時のつり上がり
と動作への適合度を、従来のブラウスと比較検討した結果（既発表）、袖ぐり線を変えた
ブラウスの方が好結果であった。今回は肥満体型を対象に検討した。

方法 服種、上肢基本動作、着用評価、動作時のつり上がり測定部位、測定方法等、す
べて前報と同様である。被験者は成人女子、年齢18才、ベルベック指数が93.1~104.0の肥満
体型5名を選んだ。

結果 ①製図の検討、被験者間の袖下の長さは $\frac{AH}{4}$ で最大0.9cm、 $\frac{AH}{4}+3$ で0.7cm、試作袖では
0.9cmの差となったが、前報と大差ない。袖幅、被験者間の腕付根囲寸法の差が標準・狭長
体型が約10cmであるのに対し最大3.0cmの差があるため袖幅には、
1.4~3.0cmの差を生じた。②動作への適合度、外観は同程度と認め
られた。順位は、 $\frac{AH}{4}$ の袖と試作袖は同じであるが、 $\frac{AH}{4}+3$ の袖と試
作AH寸法で従来の製図をした袖の順位が入れかわった。服種に対
する被験者間の適合度は、被験者間に前報より差を生じたが、こ
れは腕付根囲寸法に、差があるためと考えられる。

③動作時のつり上がり寸法は、ほぼ前報と同傾向であったが、順
位において左脇・前中心・後中心で、袖により入れかわった。
部位別つり上がり量の分散分析の結果は、左表のとおりであった。

部位別つり上がり量の分散分析表

要因	部位	左脇	左脇	前中心	後中心
動作		***	***	***	***
袖		***	***	***	***
被験者		***	***	***	***
動作×袖		***	***	***	***
袖×被験者		***			*
動作×被験者		***	***	***	***

***1%で有意、*5%で有意